原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和4年6月22日（水）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎　13階B･C･D会議室
- 対応：田中委員長代理

＜質疑応答＞

○司会　それでは、定刻になりましたので、ただいまから、6月22日の原子力規制委員会、定例会見を始めます。

本日は、更田委員長は海外出張に出ていますので、田中委員長代理のほうで対応させていただきます。それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

ハセガワさん、お願いします。

○記者　NHKのハセガワです。

先週の金曜日に、福島第一原発の事故について、最高裁が国の責任を認めないとする判決を出しました。この件について、受け止めをまず伺えますでしょうか。

○田中委員長代理　6月17日の日に、原子力規制委員会として、委員長談話を発したところでございます。その中に書かれてございますが、事故前の原子力規制に対する深い反省の下、原子力規制委員会引き続き、自然の脅威に謙虚に向き合い、新たな知見の収集を怠らず、規制の不断の見直しに努めてまいりますというふうなことを書かれてまして、まさにそのとおりでございます。

○記者　その新たな知見の収集ということで、改めてこの不確かな知見、自然現象含めてではありますけれども、知見をどのように収集し、また理解し、それを判断していくかということが改めて問われたところかなと思うんですが、その辺りについて、これまでの取組含めて、これからの規制委員会としての立場含めて伺えますでしょうか。

○田中委員長代理　まずは、新たな知見を収集ということでございますが、それをどういうふうに理解、評価して反映させるかということでございます。もちろんそのときには、科学的、技術的な根拠はないといけないんですけども、変に間違った感じではなくて、本当に科学的な観点から、合理的なことを考えていって、それを反映するところが大事でございます。

○司会　ほかに御質問ございますでしょうか。では、エンドウさん、お願いします。

○記者　共同通信のエンドウです。お疲れ様です。

IAEA（国際原子力機関）の先週入れましたレビューについての受け止めをお伺いしたいと思います。直接ではないですけども、リリースのほうで、グロッシー事務局長がIAEA

の基準に則っていると、沿っているというふうなコメントを出されていました。それも踏まえて、御所見をいただきたいと思います。

○田中委員長代理　IAEAに則る、あるいは世界基準に則るということは当然のことでございますし、また我々の、日本のいろんな規則、規制の基準とかに合っていないといけないと思います。今回のレビューチームからの進捗報告書は、IAEAとしてのレビューでございますので、それと、また先月、我々がALPS（多核種除去設備）処理水について審査したときの、1章、2章とありましたけども、1章のほうは炉規法に基づいてのあれ、それから2つ目は政府方針に基づいての審査ということで、若干の視点が違うわけですけども、そういう視点の違いもよく理解しながら、どういうふうにして、それが評価されてるのかというふうなことの認識も大事かと思います。

○記者　今回のレビュー踏まえて、今後取り組むべき課題とかっていうことはございますか。

○田中委員長代理　本日も、進捗報告書にも、こういうことを留意すべきだとか、こういうことを強調するとかいっぱい言葉がありまして、そういうことは、我々としても留意し、例えば文書化とか、何か規則との整合とかで、そうしないといけないと思います。そういうことでは、今回の進捗報告書からも、重要な指摘をいただいているかと思います。

○記者　ありがとうございます。

○司会　ほかに御質問ございますでしょうか。では、フジオカさん、お願いします。

○記者　NHKのフジオカです。1点すみません、直近で、石川県の能登半島で、ちょっと大きめの地震が相次いでいるという現状があって、直近だと、志賀発電所が近いと思うんですけれども、震度としては低いと思うんですが、現状の影響としては、委員会としてはどのように見てらっしゃいますか。地震が相次いでいることについての受け止めといいますか。

○田中委員長代理　今回の珠洲と若干ある程度近いんだけども、震動が少なくなっています。少ない活動ございました。これについては、いろんな気象庁とかいろんな地震の研究者等が解析、評価等しているところでございますが、そのようなところ我々としても、十分と注視していきながら見ていかないといけないと思いますし、また、規制庁、規制委員会なんかにもその辺の専門家がおりますから彼らから意見を聞き、考えていかないといけないかなと思っています。

○記者　分かりました。だから、なかなか今の状況を受けて何か具体的な対応をするということは、多分考えにくいと思います。ちょっと続いているから、少し地元でも不安の声みたいなところもあって、規制委員会としてどのように捉えていくのかなというところが少し気になっていまして。

○田中委員長代理　志賀の発電所とはそれだけ遠くない距離ということは理解してますか

ら、地元の方々が心配されているのも十分理解してますのでね、この大きな地震のメカニズムとか、将来のこととか等々について先ほど申し上げましたが、いろいろな専門家、気象庁の考えとか、また我々規制委員会の中、規制庁の中でも、しっかりと考えていかなきゃいけないことかなと思います。

○司会　先ほど、ヤマノさん手を挙げられていました、お願いします。

○記者　朝日新聞のヤマノと申します。

先ほど、委員会でお話ありましたデジタル原則に照らした規制の一括見直しプランを踏まえた御対応についてなんですけれども、いわゆる安全との兼ね合いでデジタル化が難しい部分というのも当然あろうかと思うんですが、これについて今後どのように御対応されていかれるお考えでしょうか。

○田中委員長代理　今日、その国のデジタル化方針に基づいてどういうふうに我々見ていくかといった説明あったところでございますし、また、石渡委員からの意見もあったかと思いますけども、本当に、原子力の特殊性とか、あるいはデジタル化に向かないものか分からないという、本当の対象の状況をよく分かりながら、どういうふうにこれを進めていくかということを、我々としてしっかりと対応していかないといけないのかなと思ってますし、その辺のところは規制庁としても十分分かっているんじゃないかと思います。

○記者　例えば、今日、いわゆるいろんな事例が挙がってましたけれども、御覧になられて、これはちょっとデジタル化は難しいんじゃないかみたいな事案というのは今、念頭にあるものとかございますでしょうか。

○田中委員長代理　今日説明があったことでありますし、実際、現場での検査とか見ないといけないとか、IAEAからの査察関係とか、やっぱりいろいろ難しいところあるし、本当に何て言いましょうか、重要なポイントが、変にデジタル化することによって見落とすことがあってもいけないなと思っています。その辺のところ、十分これから注意していって事務局のほうで対応していくと思っています。

○記者　ありがとうございました。

○司会　ほかに御質問ございますでしょうか。

では、まずヒロエさん、お願いします。

○記者　共同通信のヒロエといいます。

本日の議題ではないんですけど、JAEA（日本原子力研究開発機構）の東海再処理施設のことで伺いたいんですけど、東海再処理施設が運転してた最盛期のときと比べて職員の人数であったり、協力会社とか含めての人材が二、三割も減少しているという状況が以前、出席された会合で報告されてたと思うんですけど、廃炉は70年続くわけで、規制委員会としてその人材が今後続いていくのか、その辺りはどういうふうに見てらっしゃ

いますでしょうか。

○田中委員長代理　今、東海再処理は、一つのやっぱり重要なところでガラスの固化等あります。それ以外のところもあるんですけれども、やっぱりガラス固化等の専門の方々が担当してきていて、定年になる人もいるし、等々ある。また、そういう人を育てになる人にもうちょっと頑張ってもらうとか、東海再処理というかJAEAとしても、やっぱりそういう専門の人をいかに活躍してもらい、さらに、そういう技術とかを若い人にどう伝承するか、大変重要だと思ってると思います。そういうところは、しっかりやってるということは、我々のほうでも監視チームのほうで見ていますし、頻繁にコメント等もしているところでございます。

○記者　おっしゃられたガラス固化が最優先課題だと思うんですけど、ガラス固化は、2028年度までに全部終わらせると言ってると思うんですけど、そこの人材については今のところ確保されていると理解していいんでしょうか。

○田中委員長代理　全体については人が確保されてるかと。

○記者　2028年までにもう既に人材が不足している状況なのか、そうではないのか、その辺りはどういう状況。

○田中委員長代理　JAEAとしても、2028年までに終わるんだとして、そのためにどういう人を、どこにどういう人を入れていかなきゃいけないか分かってるかと思いますし、我々もそういうふうなこれからのスケジュール、どんな作業があるかということをよく見て、本当の、man(人)的なところが問題ないかどうかということも見てます。

○記者　ありがとうございます。

○司会　それでは、ササキさん、挙げられていました。お願いします。

○記者　朝日新聞のササキと申します。

　先日の福島第一の最高裁判決について、NHKさんの質問に関連してお伺いしたいんですけれども、先ほど、新たな知見について、本当に科学的かどうかを考えて評価することが大切だということで、何か一見、必ずしもその安全側に立つというんではなくて、受入れについて慎重に検討することが大事だというふうにも聞こえたんですけど、もう少しそこを詳しく教えていただけますでしょうか。

○田中委員長代理　ちょっと言い方間違ってたか分かりませんけども、慎重に検討するというのは、本当に、それが我々というのは、まず原子力の安全が一番重要だと思ってますし、それから自然の脅威というのは、大変重要なポイントであって、それを十分に予測することは100％できないものもあるんだということを認識して、それにどう対応するかという、本当に対象の大きさといいますか、怖さというか、それを認識しながら、どういうふうに対応するかということが大事でございまして、言われるように、変にあるところから何か線を引っ張ってこっち良いとか悪いとかしてしまうと、やっぱり重要なところを見失うことがあってはいけないかと思いますし、それが言ってみれば、これ

までのいろいろな反省かと思いますので、それを見失わないようにしっかりとして、やっぱりこれは必要だからこれは対応させなくちゃいけないんだというようなことを、本当に評価し、対応を求めるということになっていかないといけないなと思っています。

○記者　それで不確かさというものをしっかり重視して見ていかなきゃいけないということでしょうか。

○田中委員長代理　不確かさというのを、言葉でなかなか簡単な、中身はなかなか難しいところもございますから、本当の自然現象の不確かさというのはどんなものなのかとか、やっぱりそこをよく認識しながら、そういうある程度、不確かさなことが起こったとしても対応できるというふうなことが大事でございます。

○記者　ありがとうございます。

○司会　ほかに御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

－了－